

漁火の家

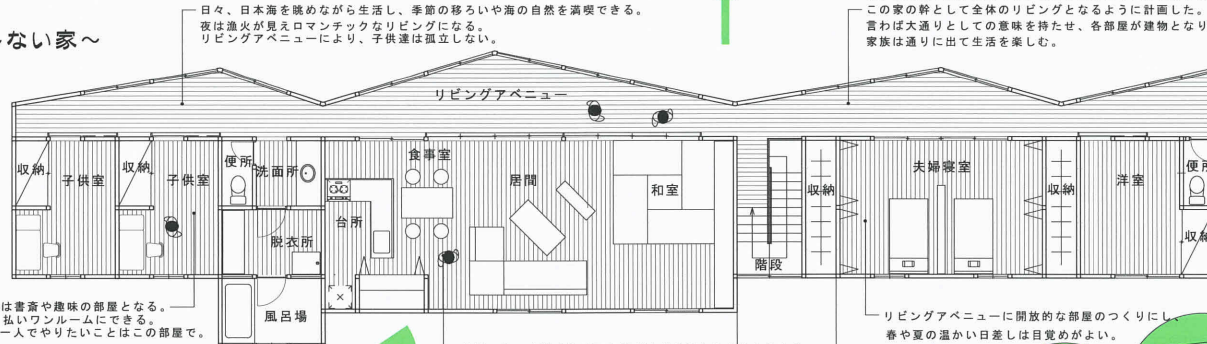
～ひと個を大切に、家族が孤立しない家～

夜の日本海は美しい。月明かりの海、月を写す海、漆黒の海、漁り火が散らばる海、様々な表情を持つ日本海は宝だ。

主人は漁師、毎日、海を見ては漁ができるか判断をする。家族は漁に出て無事に帰って来ることを祈っている。この家は、ロマンチックに海を眺めて生活しながらも、漁り火を見て主人の安全を願う家として考えた。そして、日本海と共に生活し、自然の豊かさ厳しさをしながら家族が成長する家である。

この家の骨は「リビングアベニュー」と名付けた廊下の機能を持った居間である。ここで家族が過ごし、学習や作業、昼寝など家族の顔や気配を感じながら生活することが出来る。また、個に展れることも考え、公と個の行き来がしやすい、個のプライバシーを守りながら自由な生活ができ、家族との距離感や気持ちのバランスが保たれる家の造りになっている。

20年後は書斎や趣味の部屋となる。壁は取り払いワンルームにできる。学習など一人でやりたいことはこの部屋で。



砂浜に打ち寄せる波紋をイメージした平面形状。

北側の障子を開ければ日本海が広がり豊かな気持ちとなる。日本海がそこにあり、自然が常感じられる。

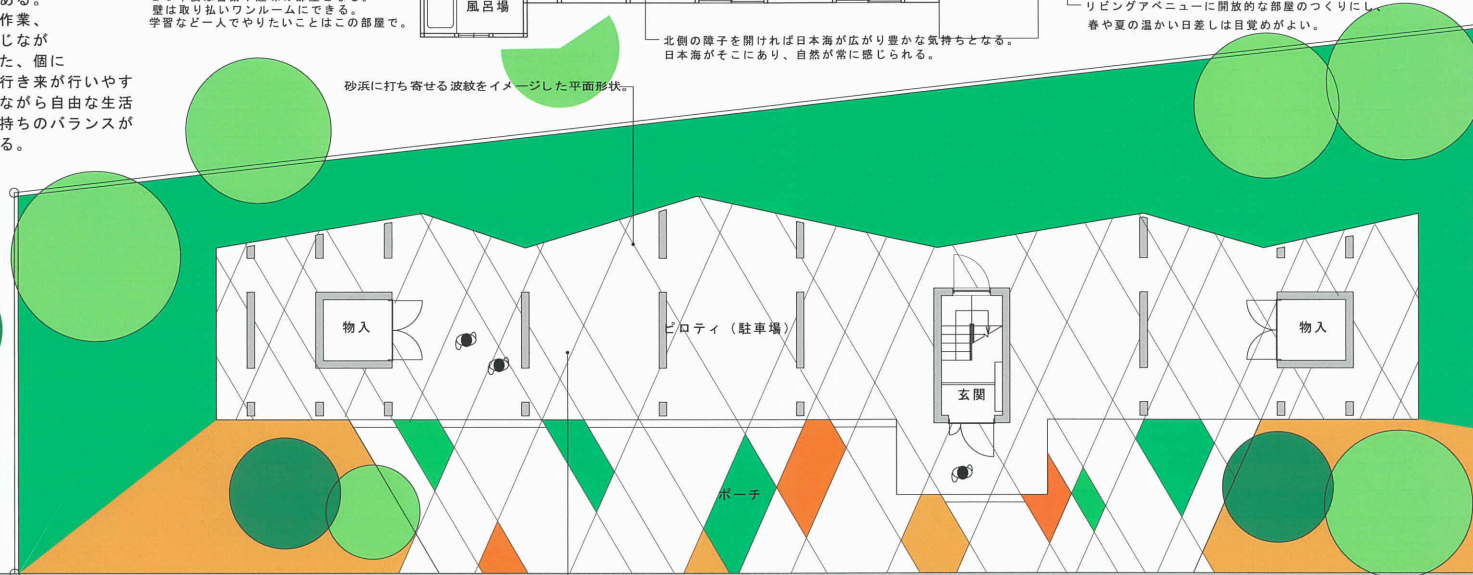
外からの光や風が感じられ、家の中と外をつなぎ自然を身近に感じられる。この家の幹として全体のリビングとなるように計画した。言わば大通りとしての意味を持たせ、各部屋が建物となり、家が「まち」となる。家族は通りに出て生活を楽しむ。



2階平面図



配置図・1階平面図



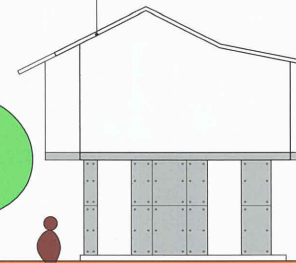
ピロティは風が通り、夏は椅子やテーブルを置いて、お茶を飲む。時には猫が昼寝をする。

前面道路(幅員5M)

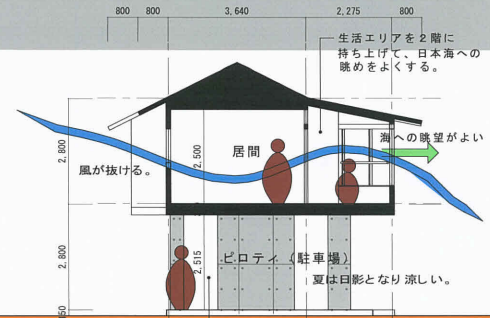


南側立面図

屋根の形を切り妻とし、地域になじむようにした。



東側立面図



生活エリアを2階に持ち上げて、日本海への眺めをよくする。

風が抜ける。

ピロティ(駐車場) 夏は日影となり涼しい。

ピロティをつくりそこは、車庫であったり生活の作業スペースとなる。夏は風が通り涼しい環境をつくりだす。